
三人の犯罪者

奈森咲良

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三人の犯罪者

【Zコード】

Z2255BA

【作者名】

奈森咲良

【あらすじ】

東京湾の港に駐車されていた車から男性の遺体が発見される。警察は自殺と判断するが……。

プロローグ（前書き）

新連載です。感想、評価お待ちしております。

プロローグ

乗客の足を促す様に駅構内に鳴り響く発車ベルと駅員のアナウンスを聞きながら土橋は改札機を抜け今か今かと発進を待つている列車へと走っていた。この列車を逃せば次は三十分後だ。しかも三十分後に来る列車は各駅停車で、急行なら十五分程度で着くものが四十分もかかるてしまう。今日は一刻も早く家へ帰つて体を休めたい気分なのだ。

土橋は警視庁組織犯罪対策部組織犯罪対策五課に所属する警察官である。組織犯罪対策部は読んで字の如く組織的な犯罪を取り締まりする部署で、暴力団事犯等も彼等の担当となることが多い。土橋は今年で四十になるが、警察官になつてこれまで大きな手柄を立てたことはない。だが土橋自身としては自分の働きがもつと評価されても良いはずだと常々思つていた。自分は今まで仕事を何よりも優先し、家族という代償を払つて日本警察の為に尽力してきたつもりだ。しかし、自分の働きは何時までも評価されはしない。最近じや年下の男に階級で上をいかれてしまつた。屈辱的だつた。見返してやりたい。自らの存在を警察に認めてもらいたい。土橋は何時しかそんな考えを持つようになつていた。

自宅からの最寄り駅である緑台駅に着いたのは午後十時頃だつた。何とか列車に乗り込むことが出来て、遂にし方到着したところだ。駅から自宅のマンションまでは歩いて十程。土橋はその道のりを重い足取りで歩きだそうとしていた。

(……ん)

駅を出たところでふと土橋は足を止めた。視線の先には一人の男女が居て土橋の視線には気づいてはいない様子だ。

(……どうして)

土橋はしばらくそこに立ちすくんでいたが、やがて男女が歩き出すと自然と動き出していた。男女は土橋の自宅とは正反対の方向へ歩いていくが、土橋の足は躊躇なく男女の後を追っていた。早く帰宅しようとしていたことなど既に頭には無かつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2255ba/>

三人の犯罪者

2012年1月5日19時52分発行